

平成27年度 学校自己評価システムシート

目指す学校像 自己観察教育に基づき、学力向上と部活動の充実を目指す

本年度の重点目標 1、教科指導の徹底と学力向上  
2、大学合格実績の伸長  
3、対話を重視し個々の人格を尊重した指導  
4、部活動の活性化

|     |               |
|-----|---------------|
| 達成度 | A ほぼ達成 (8割程度) |
|     | B 概ね達成 (6割程度) |
|     | C 変化の兆し(4割以上) |
|     | D 不十分 (4割以下)  |

| 重点目標<br>番号 | 年 度 当 初   |   |   |   | 最 終 評 価 (4月5日現在)  |     |   |
|------------|---|---|---|---|---|-----|---|
|            | 現状と課題   | 評価項目  | 具体的方策   | 評価指標  | 経過・達成状況   | 達成度 | 次年度の課題と改善策  |
| 1          | <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の自己満足の授業が実は生徒側は良い授業とは思っていない。</li> <li>生徒にとってわかりやすく進度も適切な授業もあるが、全ての授業が理想的に展開されているわけではない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容を工夫し関心興味の度合いに着目。</li> <li>学力伸長に着目。</li> <li>予習、復習に着目。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>年に数回の授業研修を行う。教科内での研修は意義がありお互い参考になっている。</li> <li>進学を見据えて実力のある教師による研修を行い、教師の実力をつけている。</li> <li>教科主任会を設ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習をするようになったか。</li> <li>生徒の実力が向上したか。</li> <li>生徒の授業に対する満足度が高まったか。</li> <li>各教科担当の教材研究が充実したか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研修週間を中心に研究授業を行った結果大きな成果があった。</li> <li>自己作成の実力試験問題に深みが出て来た。</li> <li>生徒の授業に対する満足度が高まったか。</li> </ul> | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>高い学力伸長が特定の教科(英語・数学)に見られた。他教科においても伸長が見られた。</li> <li>クラスによっては平均点のばらつきがあり、教科の連携が必要。</li> <li>まだまだ、導入に工夫が必要。</li> <li>教科会の充実が期待される。</li> </ul> |
| 2          | <ul style="list-style-type: none"> <li>難関国立私立大学の実績が伸び悩んでいる。</li> <li>より高いレベルの大学の進学指導の模索。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>あるレベル以上の大学の合格者数。</li> <li>第一志望に合格した人数</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>二者面談を繰り返し行いモチベーションを高める。</li> <li>特に夏期休業中に学習指導を丁寧に行う。</li> <li>志望する大学のランクを一つあげる指導、入れる大学より入りたい大学を目指す。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、本人の進学への不安を取り除く面談ができたか。</li> <li>学力伸長があったか。</li> <li>第一志望大学のランクが上がった生徒の人数が増えたか。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>夏期休業後の二者面談では希望ランクの上を志望する生徒が増えた。</li> <li>学力の伸長が顕著。</li> <li>夏期休業中の入試対策講座の参加者が多い。</li> </ul>          | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>進学への不安を取り除きモチベーションを高める環境の必要性を再認識された。</li> <li>大学合格には個々の学習環境が大きく影響することを確認した。</li> <li>問題は、環境と学力を高めること。</li> </ul>                           |
| 3          | <ul style="list-style-type: none"> <li>教師側の一方的な押しつけの指導に終わっていないか。</li> <li>少ない校則はともすれば放任になってしまうのではないか。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活の中で生徒の動向を見る。</li> <li>良し悪しの区別指導が大切。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員は、対話に心掛け強い絆をつけることに努力する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員から挨拶、対話できたか。</li> <li>指導後の違反生を観察したか。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>違反生の保護者には連絡を取り家庭の協力を得た。</li> <li>違反する生徒がいなく処分者が0。</li> </ul>   | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導の基本は、挨拶から始まり、常に生徒中心の対話中心の教育と改めて実感した。</li> </ul>  |
| 4          | <ul style="list-style-type: none"> <li>勝つことも大切であるが、学業と部活動の両立を目指したい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>勉学と両立できる活動を展開する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒入部を呼びかける。</li> <li>短時間集中練習できる練習内容を考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>入部人数が増えたか。</li> <li>両立をかなえた生徒が増えたか。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>入部生の確認。</li> <li>面談を通して両立のアドバイス。</li> </ul>  | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒の7～8割入部しており学校に活気がある。</li> <li>短時間練習の内容を更に模索する必要がある。</li> </ul>   |